

★世界の食品包装・化粧品包装関連規制の最新動向を解説。また、日本の現状と世界との差異は？
★中国、アジア、オセアニア、湾岸諸国・南米諸国・その他国等の最新動向とは？ ★環境型経済を目指した廃棄プラスチックの動向は？
★企業におけるリスク管理の進め方は？

(2023年版) 食品包装及び化粧品包装に関わる 国内外法規制の最新動向と実務対応上のポイント

西 秀樹 著

1971年、北海道大学大学院応用化学専攻修士課程修了後、三菱油化（現：三菱ケミカル）に入社。主にポリプロピレンの研究開発を担当後、本社）品質保証部にて全社品質保証活動に従事。その後加工メーカーを経て、現在はフリーの立場で主に食品・医薬品・医療機器等のプラスチックに関する国内外法規制の調査、執筆、講演をしている。

[専門分野] プラスチックの製品安全
[関連のご活動] 日本包装専士会 元会長
日本包装技術協会 包装管理士講座 講師
ポリオレフィン等衛生協議会 加工部会 元主査（元樹脂部会：三菱ケミカル）
（旧）厚生省 医療用原材料マスターファイル検討委員会 委員

発行 2023年10月
定価 36,300円（税込（消費税10%））
体裁 B5判 233ページ
ISBN 978-4-86502-255-1

★本書は『(2020年版)食品包装及び化粧品包装に関わる国内外法規制の最新動向と実務対応上のポイント』の改訂版となります

本書を読んで理解できること

- ◎ 世界の食品包装法規制の動向
- ◎ 世界の化粧品包装法規制の動向
- ◎ 日本の法規制の現状と課題
- ◎ 環境型経済を目指した廃棄プラスチックの動向
- ◎ 企業におけるリスク管理の進め方

著者より

世界の食品取引量の増大に伴い、世界各国で食品包装規制の国際的整合化が進んでいる。世界をリードするのは欧米であるが、特にEUの規制は体系的で分かり易いため、中国、湾岸諸国、南米南部諸国等が採用し、又ASEANも採用を表明したことにより、今や世界標準になったと言える。日本は、2000年にPL制度を施行したが、2023年内にはPLは早くも改正予定である。PL以外にも樹脂の溶出条件改正、紙・接着剤・印刷インキの基準化等の多くの課題を抱えており、現時点での日本の食品輸出額は、約1兆4千億円であり、農水省は更なる振興を目指して海外の包装法規制に関するセミナーを開催している。しかし、このままでは日本の法規制は国際的に大きな後れを取り、交易上の障壁となることが懸念される。

化粧品は、ISOと国際会議に日本も参加している。今後、欧州化粧品工業界が進めている原材料の情報伝達システムの開発が大いに注目される。

本稿は、これらの世界の最新の動きを織り込んで3年半振りに更新したものである。製品の輸出入に際しては、相手国の法規制遵守が基本である。本稿が食品と化粧品における製品安全の向上の一助になれば幸いである。

第1章 日本の食品包装法規制類

- 1.1 食品包装材料の種類と使用割合
- 1.2 食品衛生法 / 1.3 業界自主基準
- 1.4 食品衛生法改正によるPL制度化進捗状況と企業の対応
- 1.5 食品用包装・容器の再生プラスチックに関する指針と工業化状況
- 1.6 日本のまとめと実務対応上のポイント

第2章 欧州連合（EU）の食品包装規制

- 2.1 EUの概況 / 2.2 EUの規制制定の仕組み
- 2.3 食品接触物質 / 2.4 プラスチックの規制
- 2.5 機能性バリアー及び多層体の扱い
- 2.6 PIM 第16次改正
- 2.7 アクティブ・インテリジェント（AI）材料及び製品
- 2.8 NIAS（非意図的な添加物質）
- 2.9 EUにおける印刷インキのPL化の最新動向
- 2.10 リサイクルプラスチックの扱い
- 2.11 セラミックの規制（指令84/500）
- 2.12 EUの今後の予定と評価ロードマップ見直し
- 2.13 各国の法規制類と相互承認
- 2.14 EUと欧州評議会
- 2.15 トピックス—1— ビスフェノールA（BPA）規制問題
- 2.16 トピックス—2— 鉱油（Mineral oil）規制問題
- 2.17 EUのまとめと実務対応上のポイント

第3章 米国とカナダの食品包装規制

- 3.1 米国の規制 / 3.2 カナダ
- 3.3 米国とカナダのまとめと実務対応上のポイント

第4章 中国の食品包装規制

- 4.1 概況 / 4.2 担当部署 / 4.3 食品安全法
- 4.4 包装関連の国家標準
- 4.5 紙・板紙の規格（GB 4806.8-2022）
- 4.6 食品接触用金属材料及び製品（GB 4806.9）
- 4.7 食品接触用コーティング材及びコーティング層
- 4.8 食品接触用ゴム材料及び製品（GB 4806.11）
- 4.9 新しい国家標準改正
- 4.10 業界団体の自主基準
- 4.11 食品関連輸入製品に対する規制
- 4.12 まとめと実務対応上のポイント / 4.13 香港

第5章 アジア諸国の法規制

- 5.1 概況 / 5.2 韓国 / 5.3 台湾 / 5.4 インド
- 5.5 タイ / 5.6 ベトナム / 5.7 インドネシア
- 5.8 マレーシア / 5.9 フィリピン / 5.10 シンガポール
- 5.11 カンボジア / 5.12 ラオス / 5.13 ミャンマー
- 5.14 ブルネイ / 5.15 ASEAN Food Safety Network（AFSN）
- 5.16 スリランカ / 5.17 ネパール / 5.18 バングラデシュ
- 5.19 まとめと実務対応上のポイント

第6章 オセアニア・湾岸諸国・南米諸国・その他の国々

- 6.1 オセアニア / 6.2 湾岸諸国
- 6.3 南米南部共同市場諸国（メルコスール）
- 6.4 アンデス共同体 / 6.5 その他の中南米諸国 / 6.6 ロシア
- 6.7 イスラエル / 6.8 トルコ
- 6.9 まとめと実務対応上のポイント

第7章 化粧品の容器包装に関する日欧米の法規制と実務対応上のポイント

- 7.1 はじめに / 7.2 化粧品容器の材料
- 7.3 化粧品に関するISOとGMP
- 7.4 化粧品規制協力国際会議 / 7.5 日本の法規制
- 7.6 米国の法規制 / 7.7 欧州連合（EU）の法規制
- 7.8 容器の原材料の規格
- 7.9 欧州化粧品工業会のドラフトガイドライン
- 7.10 日欧米の化粧品規制のまとめと実務対応上のポイント

第8章 プラスチックの環境問題の動向

- 8.1 国連の持続可能な開発目標：SDGs
- 8.2 日本のプラスチック資源環境戦略
- 8.3 日本のリサイクルの実態
- 8.4 プラスチック資源循環促進法施行（2022年4月）
- 8.5 産業界の連携（CLOMA） / 8.6 研究事例
- 8.7 プラスチック環境問題の現状のまとめ

第9章 国内外全体のまとめと企業の対応

- 9.1 国内外の最新動向のまとめと実務対応上のポイント
- 9.2 海外からの輸入資材の留意点
- 9.3 輸出における留意点
- 9.4 企業の対応と留意点
- 9.5 最後に—世界食品安全会議2018

★書籍申込書

FAX : 03-5740-8766、または、→ <https://johokiko.co.jp/publishing/BA231001.php>

※FAX番号はくれぐれもお間違えの無いようお願い致します。

（書籍申し込み要領）

- ◎右記入の上、FAXでお申込を承ります。
- ◎お申込書を確認次第、書籍、請求書および振込要領をお送りいたします。
- ◎未発刊の書籍をお申込の場合、申込書を確認次第、受領書をお送りいたします。発刊時に弊社より書籍、請求書および振込要領をご送付いたします（送料は弊社負担）
- ◎お支払いは請求日翌月末日までに、銀行振込にてお願いいたします。原則として領収証の発行はいたしません。
- ◎振り込み手数料はご負担ください。
- ★ <https://www.johokiko.co.jp/>の申込みフォームからも承ります！

書籍名HP 【BA231001】(2023年版) 食品包装及び化粧品包装国内外法規制		冊数 ____冊 ※記入の無い場合は1冊
会社名		
所属部課・役職等		
申込者氏名	TEL	FAX
E-MAIL		上司役職・氏名
住所〒		
備考		
ご案内をご希望の場合は今後の案内方法にレ印を記入下さい(複数回答可) <input type="checkbox"/> e-mail <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> 郵送		

ご連絡頂いた、個人情報は弊社商品の受付・運用・商品発送・アフターサービスのため利用致します。今後のご案内希望の方には、その目的でも使用致します。今後のサービス向上のため「個人情報の取扱に関する契約」を締結した外部委託先へ、個人情報を委託する場合があります。個人情報に関するお問合せ先 policy@johokiko.co.jp